



# 諏訪湖通信34号

令和3年4月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 「諏訪湖の実」を使ったお酒の試作品が完成しました!

NPO法人諏訪市セーリング協会主催による、諏訪湖に自生するヒシの実から作った焼酎、リキュールと、高校生が手作りのヒシの実入りお菓子の試飲、試食会が駅前交流テラスすわっチャオで開かれました。新型コロナ対策として刈り取り作業に協力した諏訪湖ライオンズクラブと同クラブ諏訪和支部の役員、金子ゆかり市長はじめ行政関係者など少人数での開催となりました。



県の元気づくり支援金を受けて実施した事業で、諏訪湖創生ビジョン推進会議の皆さんや地域の高校生など多くの方にご協力をいただきました。昨夏～秋にヒシ約3.5トンを回収し、実の殻の中、芯部分のみ(約35キロ)を集めて飯田市内の醸造蔵で試作したところ、焼酎約4リットル、リキュール約2リットルができました。

また、お菓子は諏訪清陵高校の海沼怜さんが蒸しケーキを手作りしてくれました。焼くと実が固くなってしまうので、蒸すのがちょうどいいそうです。

お酒のお味はくせがなく、ほんのり甘い味で、他の素材と組みわせるベースやお菓子の素材などにもいい感じです。またケーキはヒシの実が、ナッツのような食感で、合わせたチョコチップと良く合います。



今回の取組は、マイナスをプラスにする発想で、多くの方が諏訪湖に関わるきっかけ

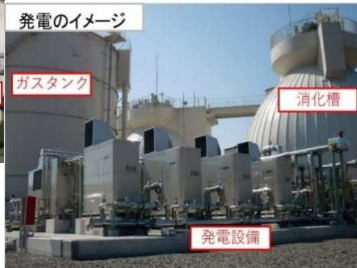
となりました。実の収穫には大変な労力が必要のため、商品化にはハードルが高そうですが、新しい発想の取組が広がっていけば、諏訪湖や地域の魅力向上につながります。これからを期待したいですね。



## 「消化ガスを発電に活用します」

クリーンレイク諏訪では、下水の処理過程で発生する消化ガス(メタンガスを主成分とするバイオガス)を有効利用する取組として、消化ガスを燃料とした発電事業を民設民営で行います。県が消化ガスを発電事業者へ売却し、事業者は処理場内に発電設備を設置してFIT(固定価格買取制度)により売電するものです。消化ガスの売却益は、処理場の維持管理費に充てることにしています。

令和4年10月から発電が開始される予定です。このようなエネルギーを創出する取組を官民連携して進めていきます。



## 冊子「諏訪湖に学ぶ」を元にした映像番組 諏訪湖クラブの作成 第5回目

諏訪湖クラブでは、諏訪湖の知識を深め、諏訪湖の環境保全活動などに協力して頂くため、多くの企業の協賛を得て、映像番組や新聞紙面での諏訪湖紹介番組や記事の作成を、令和3年1月から6月まで6回にわたって行っています。第5回目は「誰もが親しめる諏訪湖/諏訪湖の魅力」で、ゲストは岡谷市出身の自転車冒険家、小口良平さんです。現在諏訪湖では、諏訪湖の自然と触れあいながら走れる諏訪湖周サイクリングロードの整備が、長野県及び2市1町により進められています。

放送局: LCVTV-121チャンネル

15分番組

火曜日 pm 3:00~

木曜日 am10:30~ pm3:00~

金曜日 pm 8:45~

日曜日 pm 5:15~

出演 沖野外輝夫、小口良平ほか。6月は、諏訪湖と人々の食生活の関係を知る目的で、諏訪の川魚店を紹介する予定です。



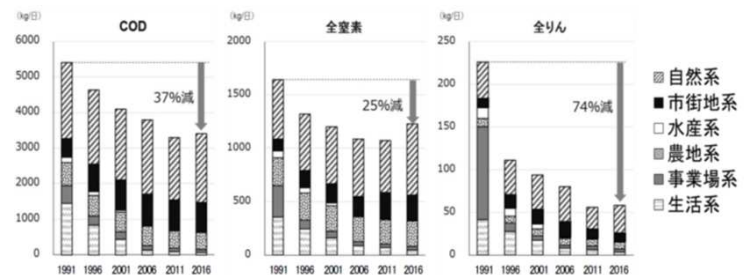
諏訪市により整備され開通した諏訪市柳並線(L=167m)及び諏訪湖周サイクリングロード(L=780m)

## 諏訪湖の底質改善に向けて 40年前との比較

県環境保全研究所と信州大学は、諏訪湖の底泥の現在と40年前(1980)の違いを湖心、沿岸域の計11地点で調べ、結果を公表しました。窒素については調査地点によって増減があり、下諏訪町高木や諏訪湖間歇泉センター前、流域下水道終末処理場前などで増加がみられ、いずれも水草ヒシの繁茂地での増加が目立ちました。諏訪建設事務所が平成18年度に実施した、諏訪湖の流入負荷収支モデルの試算によると、流入負荷は全窒素414t/年、リン31t/年に対し、底泥から溶出する全窒素は203t/年、リンが20t/年で、諏訪湖への全窒素負荷量に対して底泥溶出による窒素負荷は1/3、リンは2/5に相当すると試算されています。諏訪湖の内部汚濁負荷は、諏訪湖底のしゅんせつ※1などにより低下しました。また、諏訪湖に流入する汚濁負荷量の推移を調べると、下水道の整備率※2が上昇したことなどにより流域からの汚濁負荷量は減少傾向にあります。特にリンの減少率が高いことが今回の結果に繋がっているようです。底質の窒素が増加している原因は生物的に複雑ですのでさらに調査が必要とされています。

※1 諏訪湖のしゅんせつ I 期/湖岸(1969~) II 期(1981~)

※2 諏訪湖流域下水道の供用開始(1979~)



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信35号



令和3年5月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議

## 「令和3年4月14日に柳並線・諏訪湖周サイクリングロード開通式が行われました」

平成29年度より着手しました柳並線延伸事業が、地権者の皆さま、地元の皆さまのご理解とご協力をはじめ、事業者等関係される皆さまのご尽力により、無事に開通を迎えることができました。

柳並線延伸区間は(都)湖周線と中浜2号線を結ぶ整備延長167m、整備幅員20m(車道9m、自転車通行帯3m、歩道8m)の道路です。



上諏訪駅側から見た柳並線(中央)

今までは、上諏訪駅西口から観光地でもある諏訪湖畔へ直接通り抜けることができませんでしたが、本事業で道路が1本でつながることにより、交通アクセスの利便性の向上が図られました。また、歩行空間もバリアフリーの歩道整備により、安全・安心して利用できます。そして、上諏訪駅から諏訪湖畔を望む新たな景観が生まれたことで湖畔や道路空間への人の流れ、車の流れが大きく変わります。

◆諏訪湖周サイクリングロード整備事業  
「諏訪に住み、働き、集うすべての人々が、多様な目的に身近な交通手段として、自転車が安全で快適に利用できる諏訪湖まちづくり」を基本コンセプトに長野県・岡谷市・下諏訪町・諏訪市で整備しています。令和2年度は、諏訪市施工区間2,700mの内、780mを整備し4月1日から供用を開始しました。令和5年度の全線開通に向けて引き続き工事を進めています。

今後、諏訪湖畔と柳並線、諏訪湖周サイクリングロードと連動して、観光振興や賑わいの創出につながることを期待しております。そしてこれらのシンボルロードを活かして、未来に向けた新たな「まちづくり」に取り組んでまいります。

(諏訪市役所都市計画課)



今回完成したサイクリングロード

## 冊子「諏訪湖に学ぶ」を元にした映像番組の作成 第6回目 諏訪湖クラブ

諏訪湖クラブでは、諏訪湖の知識を深め、諏訪湖の環境保全活動などに協力して頂くため、多くの企業の協賛を得て、映像番組や新聞紙面の作成を、令和3年1月から6月まで6回にわたって試験的に行うことにしました。最終回の第6回目は「諏訪湖のめぐみ」「諏訪湖の魚を食べる」として、諏訪の川魚店と魚料理を紹介する予定です。ゲストは下諏訪町林屋川魚店会長林洋三さんです。諏訪湖でとれた魚の料理方法を紹介します。

放送局; LCVTV-121チャンネル  
15分番組

- 火曜日 pm 3:00~
- 木曜日 am10:30~ pm3:00~
- 金曜日 pm 8:45~
- 日曜日 pm 5:15~
- 出演 沖野外輝夫、林洋三さん



喜ばれる諏訪湖のワカサギの甘露煮他

## シジミの生態及び 諏訪湖での復活の取組み

国産のシジミの生産高はピークの1970年56,144トンが2018年には9,646トンとピーク時の17%にまで落ち込んでいます。2018年の県別の内水面魚類生産高は島根43%、青森29%、茨城県12%でその他が16%となっており、長野はその他の県に含まれています。3大生産地はすべて淡水と海水が混じる栄養豊富な汽水湖となっています。以前、諏訪湖のシジミは味が良いことで知られていました。大正6年(1917)には530トンも採れた記録がありました。生息環境が悪化したことにより、現在では放流したものが細々と漁獲される程度になってしまいました。シジミの生息に適した環境条件は、砂泥質の湖底と好物の珪藻類が多く生息することだと言われています。諏訪建設事務所と水産試験場諏訪支場では諏訪湖にシジミを復活させるための覆砂事業を行い、覆砂場所の生物モニタリングとしてシジミの生態調査を行っています。

名前	ヤマトシジミ	マシジミ	セタシジミ
繁殖地	汽水	全国の淡水湖	淡水(琵琶湖)
特徴	雄雌異体 卵生プラウト→幼貝	雄雌同体 幼貝で生まれる	雄雌異体 卵生
写真			

## 諏訪湖と同じ問題を抱えている琵琶湖

激減した琵琶湖のセタシジミの復活を願って、里湖づくり「シジミ復活大作戦」が始まっています。NPO法人おおつ環境フォーラムが企画したもので、琵琶湖の湖辺環境を修復する「里湖づくり」の一環として、湖底を耕す活動等を通してシジミの生息環境を整える取り組みで、水草や湖底の生きもの観察等を行っています。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信36号

令和3年6月21日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 第7回諏訪湖創生ビジョン推進会議が開催されました。



第7回諏訪湖創生ビジョン推進会議が5月27日(木)に開催されました。第6回に引き続き感染対策を実施しての開催としました。

会議では、水環境保全部会、湖辺面活用・まちづくり部会の今年度の活動計画の共有のほか、第6回の会議で報告のあった「諏訪湖周自転車活用推進協議会」と「諏訪湖の案内人(仮称)養成」WGについて、設置や今後の活動計画等が報告されました。

また意見交換では、サイクリングロードの規制に関する質問や構成団体の皆さんの活動計画が報告されました。厳しい状況が続きますが、目標に向かって、できることを着実に進めて行きましょう!



## 登場! 「アルクマ」 諏訪湖バージョン

ご存知、長野県のPRキャラクター「アルクマ」です。長野県の内外を問わず広く活躍中ですが、様々な表情・動作(怒った表情や喜んだ動作)があるのを知っていますか。頭にはリンゴ以外にも長野県内の名所・特産品をかぶったり、スポーツを楽しんだり姿かたちは多岐にわたっています。そんな「アルクマ」ですが、このたび、県内10の地域の名所・特産品を「地域のかぶりもの」にして、登場することとなりました。諏訪地域は、「諏訪湖」のかぶりものをした「アルクマ」です。



©長野県アルクマ

いつかとは思っていましたが(でも、どうデザインされるのかと思っていましたが)、ついに登場です。これからは、この諏訪湖通信でもおなじみの諏訪湖創生ビジョンのロゴマークとともに末長くお付き合いいただきたいと思います。なお、「アルクマ」の使用にあたっては、手続きが必要な場合があります。使用を希望される際には、長野県観光部観光誘客課(TEL: 026-235-7254)にお問い合わせください。

## 明治天皇は明治13年の御巡幸の際、6月23日から24日にかけて諏訪地域を通過した。

### ■明治天皇は諏訪湖の漁業に関心を示された

明治天皇は、明治13年(1880年)民情ご視察のため、山梨、信州、三重、京都方面に巡幸為された。

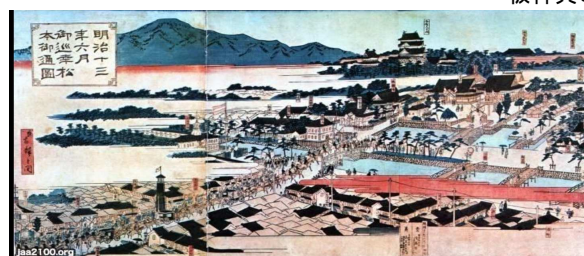
一行は、6月13日に東京をご出発されたが、伏見官、三条実美太政大臣、参議寺島宗則、同伊藤博文等を従えていた。6月23日午前9時40分頃国界橋をご通過、ご先導の山梨県令から長野県令榑崎寛直に代わり、富士見町葛木宿本陣に一時間休憩し、ここで馬車を板神輿に召換えられて富士見町原の茶屋の戸長役場でお休み、その後2頭立ての馬車に乗り換え金沢宿で昼食を取られた。午後1時半出発し途中、式部一等掌典丸岡莞爾を奉弊使として上社に遣し、弊帛を賜い、その日は行在所(現高島小)にお泊まりした。同夜は川岸村有志が採ったホテルを庭に放ってお慰め申し上げた。

6月24日は、朝6時諏訪郡内の帯敷者に拝謁仰せつけられ、三条太政大臣を上諏訪村宮坂作三方に遣わし、祖父與三郎および父恒由が諏訪湖に、蜷・海老<sup>※1</sup>などを放った功勞を賞せられた。午前7時に小雨の中を出発し、7時40分に下諏訪町高木にて諏訪湖の投網漁<sup>※2</sup>をご覧になり、下社春宮にも奉弊使をお遣しになり、平野村に入り今井内方に一時間小休憩し、板神輿に乗り換え塩尻峠では諏訪湖の風景をお眺めになり、<sup>※3</sup>11時半頃塩尻宿の本陣にお着きになり、お昼食後お馬車で激しい雨の中を4時過ぎる頃松本行在所にお着きになった。

(「諏訪の交通史」細川隼人より抜粋引用)



板神輿の図



明治13年6月御巡幸松本御通図 三代広重・画

- ※1 上諏訪村の住人宮坂伊三郎(宮坂作三の祖父)が寛政元年(1788)駿河の国の浮島沼からエビを諏訪湖に移入した。宮坂恒由(宮坂作三の父)が天保10年(1840)甲斐の国の 荊沢川からマシジミ24kgを諏訪湖に移入した。
- ※2 甲州街道が諏訪湖に最も近づくことから諏訪湖の投網漁をご覧になった所で石を投げれば諏訪湖に届くことから石投げ場と言われている。
- ※3 この日を記念して岡谷市と塩尻市の関係者が峠に集まり、礼だけの日本で一番短い式典を行っている。このようにして木曾路を名古屋・伊勢・伊賀乃上野を経て近江の大津に出られ、大津-京都間の汽車の開通式(7月15日)に臨まれ、京都ご滞在后神戸より横浜までは軍艦で横浜に上陸し、桜木町一品川を汽車により無事ご帰京されたとあります。陸路36日 海路2日 計38日の御巡幸でした。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信37号

令和3年8月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖創生ビジョン推進会議によるヒシ除去作業を実施しました

諏訪湖創生ビジョン推進会議では、湖岸域の貧酸素化や枯死による底質環境の悪化、船の運航障害、景観の悪化等の問題を生じさせるヒシの大量繁茂の対策として、官民協働で手作業によるヒシの除去作業を行っています。

令和2年度は荒天により中止となりましたが、令和3年度は7月1日～3日の3日間、諏訪湖漁業協同組合及び諏訪市セーリング協会の皆様のご協力をいただき、初島周辺で刈取作業を行いました。延べ115名の皆様のご参加により、計8トンのヒシを刈取りました。



船上からヒシ刈取作業中の参加者

最終日の7月3日は、ヒシの刈取に先立ち、水草の学習会和稚エビの放流体験を行いました。土曜日ということもあり、家族連れやお子さんにもご参加いただきました。

今後も、ヒシの大量繁茂対策や、諏訪湖について知るための学習活動を推進していきます。



参加者による稚エビ放流(諏訪湖畔の百景園)

## 「諏訪湖の日」協賛企画・協賛広告募集中!

今年度も「10月1日・諏訪湖の日」に合わせて、概ね9月～10月に行われる「諏訪湖に感謝し、将来にわたり守り、活かしていく」ための企画を取りまとめ、集中的に情報発信します。

協賛いただいた企画は「諏訪湖の日プロジェクト」として、新聞、ホームページに加えて、今年度は、パンフレットにまとめて広くPRします。各種行事以外にも「諏訪湖の日」記念メニューや、「諏訪湖の日」にちなんだ商品など、話題性のある企画もお待ちしています。

あわせて、協賛広告も募集しています。広告は、地域紙(市民新聞グループ、長野日報)の諏訪湖の日特集紙面に掲載する予定です。

詳しくは県諏訪地域振興局「諏訪湖の日」ホームページをご覧ください。

プロジェクトへの参加、お待ちしております!

## 諏訪湖周辺に設置された治水に関する伝承碑

### ①八劔神社境内「諏訪湖排水碑」

明治43年、44年に連続して諏訪湖は大洪水に見舞われました。被害を受けた上流被害民2,000名は明治44年12月2日上諏訪高島公園内に参集、天竜川排水期成同盟会を結成し、天竜川に設置されていた水車・湛の撤去と河底のしゅんせつを決議しました。この決議を受けて、大正2年秋から3年春にかけて、釜口橋の下流域1,400mについて、上流幅員54m、下流幅員18mの拡幅と、平均深度30cmのしゅんせつ工事が行われました。この改修工事によって諏訪湖の平水位が約24cm減じることができ、増水時にも水位の上昇は従前に比べて著しく少なくなりました。

率先してこのことに当たった小和田の有志によって、大正3年(1914年)10月、八劔神社(諏訪市小和田)の境内に天竜川改修の経緯を後世に伝えるための排水碑が建造されました。



諏訪湖排水碑

### ②諏訪市豊田 「伊藤五六郎顕彰碑」

有賀村に生まれた伊藤五六郎は、文政12年(1829年)毎年のごとく洪水に苦しむ農民の様子を深く憂い、若干22歳の若さで3000坪の浜中島の撤去工事を高島藩に請願して許可を得ました。私財を投げ打って幅3m長さ12mの船9艘を築造し、人夫15,900人、約1年間で難工事を成し遂げました(天保2年)

これにより以後は洪水被害が少なくなり、村人は多大な恩恵を受けました。



伊藤五六郎顕彰碑

### ③諏訪湖釜口水門左岸の公園 「諏訪湖治水碑」

(旧)釜口水門が昭和11年に完成し、洪水被害の発生は少なくなりましたが、諏訪湖の下流の天竜川で洪水被害が度々発生したことを受け、昭和48年に天竜川の改修計画に合わせて2代目の釜口水門の計画が立てられました。当時の放流量200ト/sを600ト/sに増加させる計画で、昭和53年度に着手し、昭和63年7月に完成しました。これを記念し諏訪湖の出口に当たる釜口水門脇の公園に諏訪湖治水碑が建設されました。



諏訪湖治水碑

釜口水門周辺には歴史的な記念物として旧釜口水門の建設に活躍した機関車、及び天竜川と諏訪湖を行き来する舟通し施設が残されています。



図-1 伝承碑位置図

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信38号

令和3年8月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 楽しくごみ拾いで諏訪湖をきれいに!

諏訪地域の高校生が主体となり、7月24日(土)に、「逃走中」というごみ拾いをゲーム感覚で楽しむイベントが開催されました。

この取組、「逃走中」というテレビ番組にヒントを得たもので、県内各地で行われ、諏訪湖畔でも、今年の3月に予定していましたが雨で延期となり、今回、開催となりました。



高校生、親子など約100名

の方が参加し、5名ほどでひとつのチームを作り、チーム対抗で順位を競い合いました。

テレビ番組さながらに、ミッションが出され(無料通信アプリ「LINE」を利用)、ハンターも出現し、参加者を追いかけるなど、楽しくごみ拾いが行われました。



近づくハンター

イベント発案者で株式会社Gabの北村優斗さん(長野市出身)をはじめ運営スタッフの高校生の皆さんは大変だったと思いますが、参加者の一生懸命な姿、閉会式での充実した表情が印象的でした。

今後も、諏訪湖を舞台に開催したいとのことです。諏訪湖通信をご覧の皆さんも、諏訪湖を守るためぜひ参加していただき、ハンターといい汗をかくことを願っています。



当日の成果(56kg)



参加者・スタッフの皆さん

## 諏訪湖でオリンピック・パラリンピックの選手が練習を行いました。

この夏開催の東京オリンピック・パラリンピックのボート・カヌー競技の事前合宿が下諏訪町ローイングパークで行われました。

オリンピックは、アルゼンチン(ボート・カヌー)とイタリア(ボート)の選手が、パラリンピックはパラローイングの選手が、本番に向け諏訪湖で練習を重ねていました。間近で観るトップアスリートの姿に圧倒されました。



アルゼンチン(カヌー)



イタリア(ボート)



パラリンピック選手壮行会

## この夏、諏訪湖でオール探る手も勇ましく!

### ○第41回全日本中学選手権競漕大会

7/9(金)~7/11(日)の3日間(9日は公式練習日)、長野県下諏訪ローイングパークにて「第41回全日本中学選手権競漕大会」が開催されました。



コロナ禍で開催するためにはどうしたらよいか試行錯誤し、代表者会議をリモートで

行う、開会式を当日放送で行う、レース時間を短縮し会場にいる時間を短くするなど様々な工夫をしました。特に、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置該当団体は参加制限をすることとし、今までの成果を発揮できず涙をのんだ選手がいることは開催運営する側としてもとても悔しい思いでした。

様々な紆余曲折があった中、開催された大会ではありましたが、公式練習日から着々と人が集まり、10日・11日には大きな問題なくレースが進み選手たちは日ごろの成果を精一杯発揮し、無事終了しました。

レースの状況は長野県ボート協会HP(下記)にて公開しています。

ぜひご覧ください。

[http://rowing.gr.jp/nagano/events/items/41\\_zenkokuchugaku/](http://rowing.gr.jp/nagano/events/items/41_zenkokuchugaku/)

### ○第42回北信越国民体育大会ボート競技



全日本中学選手権の翌週、7/17(土)~18(日)の2日間(17日は公式練習日)に同じく下諏訪ローイングパークにて「第42回北信越国民体育大会ボート競技」が開催されました。

北信越ブロックはレベルが高く、ここで1位になれば本国内でも順位が付くといわれるほどです。そんな中、各クルー健闘したレースでした。特に、少年女子クワドルプルは2回のレースでは本国内出場権が決まらず、決定戦を行いました。長野選抜は惜しくも出場権を獲得できませんでしたが、全力で挑めたいレースでした。

長野選抜からは少年女子シングルスカル(2位通過)と成年女子シングルスカル(2位通過)、成年男子ダブルスカル(各県1艇出場)が本国内への出場権を獲得しました。10月1日(金)~4日(月)にかけて行われる三重とこわか国体では、長野選抜の4名が全力を出せるよう応援の程よろしくお願いたします。(長野県ボート協会)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信39号

令和3年9月21日 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 令和3年度「諏訪湖の日」プロジェクト

3年目を迎えた「諏訪湖の日」。今年も新型コロナウイルス感染症に留意しながら、各種イベントが計画されています。参加に当たっては主催者に確認をお願いします。

また、諏訪湖創生ビジョン推進会議主催で、下記のイベントを開催します。ぜひご視聴ください。

### 「2021 諏訪湖の日フォーラム」

日時 10月3日(日) 午後1時から3時まで

会場 メイン会場 すわっチャオ

中継場所 原村立原中学校

諏訪湖畔(諏訪市内)ほか

視聴方法 YouTubeによるライブ配信



↑こちらにアクセス

### R3「諏訪湖の日プロジェクト」

期日	イベント名	主催者
9/1~10/31	令和3年度諏訪湖DEウォーク	諏訪市
9/5	湖岸清掃	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会
9/19	諏訪湖畔清掃事業	諏訪市老人クラブ連合会
9/20	諏訪湖と人とその風土	諏訪湖の魅力を訪ねる会
9/23、26、10/3	ゲーム感覚ごみ拾いイベント「清走中」	株式会社Gab
10/1、2、8、9、13、14、15、16、22、23、29、30	諏訪湖オータム花火	(一社)諏訪観光協会 諏訪湖温泉旅館組合 諏訪市
10/2	太陽工業×SDGs=諏訪湖の日	太陽工業株式会社
10/3	2021 諏訪湖の日フォーラム	諏訪湖創生ビジョン推進会議
10/3	諏訪湖を知ろう!「トムソーヤ川のプロジェクト」	諏訪湖周水路復活活潑があるきプロジェクト
10/6	諏訪湖創生ビジョン協力例会	諏訪湖ライオンズクラブ
10/17	諏訪湖周一斉清掃	岡谷市
10/17	諏訪湖浮遊ごみ回収作業	諏訪市
10/17	秋の全市一斉清掃	諏訪市
10/17	秋季一斉清掃	下諏訪町
10/17	諏訪湖清掃	諏訪市立上諏訪中学校
11/3	諏訪湖畔花いっぱい事業	諏訪市老人クラブ連合会
11/19~22	小松秀徳作品展~諏訪湖の四季を描く~	小松秀徳

※諏訪地域振興局のHP「諏訪湖の日」もご覧ください。

## 8月の大雨で流れ着いたペットボトルを回収しました!

諏訪湖の美化に取り組む地元高校生の「Fream」を中心にNPO法人諏訪市セーリング協会・学生団体の挑戦を応援する大人たちの会が呼びかけ、8月の大雨で諏訪湖に流れ着いたペットボトルの回収を行いました。夏の日差しが照り付ける中、大雨の爪痕がまだ残る湖畔を推進会議の構成員の皆さんも含む多くの方が、湖岸とボートやカヌーによる湖上から回収しました。活動を通じて、大雨による諏訪湖への漂着してきたゴミへの認識が高まることを願います。



回収作業の様子



当日の成果

## 砂防えん堤の整備は土石流災害を減災すると同時に諏訪湖の流入負荷を軽減します

この度の土石流災害で亡くなられた方のご冥福と、被災された方に心より御見舞い申し上げます。

### 令和3年8月15日 秋雨前線 土石流災害

令和3年8月12日~8月15日にかけての秋雨前線に伴う大雨により、岡谷市小田井沢、志平沢、本沢上流域などで崩壊し、多量の土石流が発生しましたが、平成18年7月豪雨災害時に整備された治山施設及び砂防えん堤が流下した土石流を捕捉し下流住宅地への流出を抑えることができました。

災害発生日 令和3年8月15日

降雨状況(岡谷市下浜)

連続雨量 386mm (8月12日23時~8月15日14時)

時間最大雨量 46mm (8月15日3時~4時)

### ■ 岡谷市花岡 小田井沢



上流域被災状況



●4号格子型えん堤  
h=8m,L=45m,平成21年完成  
流木等1,800m<sup>3</sup>を捕捉  
下流にダブルウォールえん堤あり

### ■ 岡谷市鮎沢 本沢川



上流域被災状況



●2号ダブルウォールえん堤  
h=8m,L=55m,平成20年完成  
流木等1,900m<sup>3</sup>を捕捉  
下流にダブルウォールえん堤あり

### 令和3年9月5日 集中豪雨 土石流災害

令和3年9月5日の夕方からの降雨は、局地的な範囲で集中豪雨となり茅野市内の下馬沢川他で災害をひき起こしました。

災害発生日 令和3年9月5日

降雨状況(杖突峠)連続雨量 159mm

時間最大雨量 63mm (9月5日19時~20時)

### ■ 茅野市高部 下馬沢川



上流域被災状況 大きい石が運ばれて来ましたが、えん堤により流速が落ち一部はここにとどまりました。



●コンクリートえん堤  
h=6.4m,L=26.2m,昭和58年完成  
土砂等2,500m<sup>3</sup>(推定)を捕捉し下流への流出量を減じた  
越流高 天端+40cm

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信40号

令和3年10月20日 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 2021 諏訪湖の日フォーラムが開催されました

「10月1日・諏訪湖の日」を多くの皆さんに理解してもらうための企画として、今年も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、10月3日にオンラインイベントを開催しました。

その模様を報告します。なお、当日の様子はYouTubeで視聴できます。また、LCVでも放映を予定しています。

当日は、秋晴れのもと、諏訪の各地をオンラインで結び、様々な取組を発表しました。

すわっちゃオでは、メインのパネリストが集結。実は、この日が関係者全員がスタジオに集結するのは初めてのため、座る場所をはじめ、どのようなフリップを使うか、宮原先生持参の透明度を図る機材の見せ方、画面写りをよくするため背景をどうするかをパネリストの皆さんと中継を担当していただくLCVの皆さんとでアイデアを出す頭の体操。その本番、画面の映りはいかがでしたでしょうか。



いざ本番!



こちらは、リハーサル

原中学校からは「水」をテーマにミニ授業。会場の理科室に、原中学校科学部の生徒の皆さん、先生と特別講師にNPO法人ちやいんどふっどの半田裕さんを迎えて、開講。半田さんには当日、地元阿久川のプラごみを回収し、教材としていただき、身近なところから諏訪湖を考える機会になりました。



中継の様子



Freamの二人

快晴の諏訪湖畔石彫公園からは、Freamの高校生二人が参加。手に持っているのは、ヒシの素揚げ。フォーラム開始前に、諏訪市セーリング協会の協力のもと刈取りした取れたてのヒシで作りました。試食したスタッフからは、塩コショウで味付けしたものは結構イケるそうです。

石彫公園を訪れる人が興味深そうに中継を見守る中、二人は諏訪湖への想いを語ってました。

中継後も、今後の夢ある活動を話していた二人。楽しみながら取り組んでいく姿が印象的でした。

続きは次号で。

## 諏訪地方に伝わるお天気に関する言い伝え

諏訪地方に古くから語られている天気に関する言い伝えを調べてみました。内容としては諏訪湖に関することと諏訪湖周辺の山に関するものが多く見られます。特に諏訪大社の御神体である守屋山は注目されていたみたいです。

- 1 朝焼けは雨、夕焼けは晴れ
- 2 守屋山の雲が下へ沈むとその日のうちに雨
- 3 守屋山に入道雲がかかると夕立になる
- 4 守屋山から諏訪湖に向かって雲が早く流れると天気が悪くなる
- 5 守屋の夕立は湖を渡らない(長地)
- 6 朝虹が出ると諏訪湖が荒れる
- 7 湖水を虹が跨いだら魚に出るな
- 8 諏訪湖に水平虹が出ると雨
- 9 諏訪湖の南風は天気が悪い
- 10 霧が山に上がるは晴、湖に沈むは雨
- 11 六斗川の音が聞こえたと雨
- 12 霧ヶ峰の夕立はこわい
- 13 岡谷の夕立は有賀で止まる
- 14 虹が天竜川を越すと雨
- 15 伊那風は雲が黒く温かい
- 16 塩嶺おろしは強くて寒い
- 17 橋原山に雲がかかると雨(岡谷)
- 18 高木の山に雲がかかると雨(花岡)
- 19 裏山の夕立は激しい(大和)

茅野慶次氏 昭和47年7月13日成人学校資料より引用

### ■守屋山の雨乞い

守屋山の神が怒ると雨をもたらすと信じられ、過去には干天が続くと雨乞いとして山頂の祠を谷底に突き落とす習慣がありました。祠が柵で囲ってあるのはこれを防ぐためです。「おじり晴れ 守屋へ雲を巻き上げて百舌鳥きち鳴かば 鎌を研ぐべし」という諺で言われているように、山頂に雲がかかると必ず雨が降ると信じられていたことから、諏訪盆地や伊那谷に住む人々により古くから気象の予知に用いられてました。

※原正直氏

「守屋山の習俗と伝承」より引用



守屋山東峰の祠(柵がある)

■お天気用語の「ぐずつき気味」は諏訪地方の方言から天気が雨降りになりそうな時にぐずつき気味と称しますが、藤原咲平氏が諏訪地方の方言「ぐずる」(子供が駄々をこねる)から広めた気象用語とされています。

藤原咲平氏は明治17年に諏訪市角間新田に生まれ、中央気象台長になり気象事業の基礎を築き、お天気博士といわれました。郷土を愛し、後進の指導も熱心な人で、後継者として藤原寛人(気象・諏訪市・作家新田次郎)、矢沢大二(地理・諏訪市)、諏訪彰(地震・諏訪市)が挙げられます。また、藤原咲平氏は霧ヶ峰を愛し、地形気象がグライダーの練習に最も適した地として霧ヶ峰をグライダー愛好家に広めました。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信41号

令和3年11月19日号 発行:諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 「太陽工業×SDGs＝諏訪湖の日」

太陽工業グループは、諏訪湖創生ビジョンに参画しております。また、SDGsへの取り組みに関連付け「太陽工業×SDGs＝諏訪湖の日」と銘打って、10月2日諏訪湖ヨットハーバー周辺のゴミ拾いを行いました。

グループ社員とその家族に加え、地域こども食堂を運営するNPO法人「フォースマイル」様とで合計約20名が集まり、ゴミ袋7袋分を拾い集めました。ゴミのほとんどがプラスチック、次いで空き缶でした。



ゴミは上川からの合流部に多く滞留しており、その流れのついでに釜口水門へ向かい天竜川へ出ていきます。水質の問題も含め諏訪湖の美化活動の役割は大きいと感じました。



ゴミ拾いの後には紙芝居で諏訪湖の歴史や文化、環境問題の現状にふれ、親子で一緒に諏訪湖について考える機会を設けました。参加した小学生からは「昔の様に泳いだりスケートしたりしたいから、これからも川や湖のゴミを拾いたい」と環境問題を自分事としてとらえている様子も見られとても有意義な時間になりました。

私はSDGsを通して「真善美」の考え方が人を育むと考えています。昔のような美しい諏訪湖を私たちの世代で取り戻し、次の世代に良い形でつなげていきたいです。

太陽工業経営企画部長  
林 道明



参加者の皆さん

## 第13回いり川・いり川づくりワークショップ in中部に参加しました。

10月2、3日に岐阜市の長良川国際会議場を会場としたワークショップにオンラインで参加しました。(2日のみ) 下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会さんも参加されました。

「諏訪湖の日フォーラム」の前日でもあり、北海道から九州まで多くの方が参加するため絶好の機会と望みましたが、プレゼンの持ち時間の3分では伝えきれず、終了時、しまったという表情が画面に映し出されていたようです。



プレゼン中

ワークショップでは、琵琶湖、四万十川、佐賀県内の一級河川を活動の場としている団体と同じグループとなり、それぞれの団体の抱える課題等、意見交換を行いました。限られた時間の中で、他の団体の方と話ができたことは大変良い機会となりました。



ワークショップの様子

(事務局:諏訪地域振興局企画振興課 鮎澤宏和)

## 国交省主催の下水道の市民科学発表会をオンラインで開催

令和3年8月19、20日、市民科学の更なる普及発展につなげることを目的として、国交省主催の「下水道の市民科学発表会」がオンラインで開催。2日間にわたる発表会では、科学部で活動する中高生、市民団体、企業、自治体といった幅広い団体から、様々な活動の取組みについて発表がありました。科学部で活動する中高生からは、海ごみの問題、川の生き物、水質に関する調査結果や、これらをどのように改善していくかといった展望について、企業の方からは海外での市民科学活動の事例について、市民団体の方からは、湖沼の健全な水質の確保に向けて、下水高度処理水の浄化を市民が取り組むことについて、多様な視点から幅広いテーマでの事例紹介がありました。諏訪湖クラブ井上祥一郎さんが「諏訪湖と“クリーンレイク諏訪”公民協働活動が効果を生んだ街づくり 市民活動の次の試み 市民科学的技術の広域地域連携」について発表されました。

井上さんの提案要旨:市民科学的技術による「きれいで豊かな水への調整」を目指す生物浄化法の提案と実行計画。

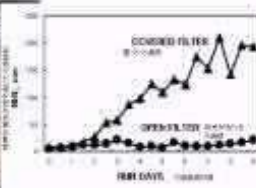
なお、生物浄化法の藻類の働きを評価するバケツモデル実験を滋賀県「びわこ豊穰の郷」と鳥取県「中海再生プロジェクト」と連携をとって進めたいとの呼びかけを行いました。



発表する  
井上祥一郎さん



バケツモデル実験と藻の評価



詳しい内容については下記で公開されています。

【発表】動画再生 [https://youtu.be/Ay0XG1TUX\\_E](https://youtu.be/Ay0XG1TUX_E)

【質疑応答】動画再生 <https://youtu.be/CK2S9o03on8>

## 「アクアピア安曇野」の生物浄化法の取り組み

アクアピア安曇野では、下水道処理水を犀川に放流するにあたり、なじみ放流を行っています。なじみ放流とは、処理水を犀川に放流する前にワンクッションにおいて周辺環境との調和を図る目的のもので「なじみ水路」とよばれています。

延長が約600メートル 多様な生物が育つ環境に配慮した水路形状とし、様々な自然河川に類似した形態を造成したことにより、多くの生物が観察されています。



水鳥もやって来ます



位置図

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局:諏訪地域振興局企画振興課 TEL:0266-57-2901





# 諏訪湖通信42号

令和3年12月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



## ワーキンググループ活動報告

今年度、2つのワーキンググループを立ち上げ、現在それぞれで検討を行なっています。  
今回ワーキンググループの活動状況を報告します。

### ①「諏訪湖周自転車活用推進協議会」



会議の様子

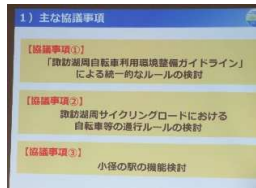
このワーキンググループは、現在整備が進む諏訪湖周のサイクリングロードの活用について関係者と協議する場所として設置されました。その第2回の協議会が、12月6日に開催されました。

現在サイクリングロードは、県・岡谷市・諏訪市・下諏訪町施工分併せて4.1kmが開通しています。全線の開通は令和5年度を予定しています。

協議会では、このサイクリングロードの統一的なガイドライン作成を目指し、協議を行いました。

ガイドラインの構成等を検討するとともに、ガイドライン作成に必要なデータ収集のため、今後交通量調査やレンタサイクルの利用状況調査の実施、試走会を行うことについても説明がありました。

また、休憩所となる「小径の駅(仮称)」の正式名称や設置場所についても検討していくこととなりました。



当日の資料から

### ②「諏訪湖の案内人(仮称)養成講座」

諏訪湖創生ビジョンに掲げる「学びの推進」のため、実施を予定している「諏訪湖の案内人(仮称)養成講座」のカリキュラム、講師、テキスト等について検討を行うワーキンググループの第2回が12月14日に開催されました。



会議の様子

第1回目のワーキンググループでは、「諏訪湖の案内人(仮称)」のあり方を中心に議論し、今回は、①正式な名称案について、②講座で活用するテキスト素材について、③カリキュラムについて、検討を行いました。名称については、様々な名称案が出されるなかで、第1回の結果を踏まえた検討が行われました。

テキストについては、諏訪湖読本を基本とする中で、関連する必要な情報をどのように取り入れていくかをメンバーの熱い想いととも検討しました。

多くの方が受講を目指す講座に向けて検討していきます。



テキスト予定の冊子

### 「諏訪湖の日フォーラム」が開催されました。②

第40号に引き続き、「諏訪湖の日フォーラム」の報告です。  
上流域では、原中学校を後にして、富士見町のみのり建設へ。こちらでは、ヒシを使用した堆肥について、社長の宮坂典利さん自ら、ヒシの堆肥化について説明していただきました。  
実は、みのり建設へ向かう際、原中学校に忘れ物をしたため、中継ができない事態に…。スタジオの皆さんを写す時間が長かったのはそのためです。(YouTubeで確認してください！)

諏訪湖畔では、上川河口で「諏訪湖を知らう！トムソーヤ川のプロジェクト」を実施している諏訪湖周水路復活漕ぎあるきプロジェクトのもとへ。

代表の百瀬 篤さんに、活動内容をお聞きし、LCVのアナウンサーの方も、いざ諏訪湖へ。

この日は、週半ばの台風の余波で、通常の風向きとは異なり東風が強く、湖畔でカヌーに乗っている皆さんも、だいぶ苦労されていました。

続いてスタジオからは、諏訪市で飲食店を営む宮坂友子さんに参加いただき、みそ天井、諏訪弁のを紹介していただきました。地元食材の利用と地元食材だけではない現実について、実際にみそ天井、諏訪弁をご用意いただき説明していただきました。



当日の様子です



インタビューを受ける百瀬さん

当日の中継の最後には、スワコエイトピークストライアスロン大会について、事務局の小島拓也さんから開催に関する意気込みや想いを熱く語ってもらいました。

今年の6月に開催を予定していましたが、コロナの影響で延期となりました。それでも、この諏訪の地で開催することをあきらめず、来年の開催に向けて、準備していること、諏訪の地で開催することについての真摯な想いを力強く語っていただきました。

また、多くのトライアスリートが、この諏訪のロケーションを気に入ってください、合宿・トレーニングに来ていることの紹介もありました。



おいしい諏訪弁！



思いを伝える小島さん

コロナ禍でオンラインでの開催となりましたが、諏訪湖に想いをはせる取組を引き続き考えていきたいと思えます。

「諏訪湖の日フォーラム」は下記で公開しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=cTbLoNPv47Q>

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901





# 諏訪湖通信43号



令和4年1月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議

## 諏訪湖が全面結氷しました!



全面結氷した諏訪湖

年末年始に気温の低い日が続き、1月7日に諏訪湖が全面結氷しました。

一部解氷しましたが、9日に再び全面結氷しました。このあと、解けたり結氷を繰り返していくようです。

今回の全面結氷は、近年ではかなり早い時期での結氷とのこと。

このまま寒い日が続けば、この43号が発行される頃には4年ぶりの「御神渡り」が観ることができるかもしれません。

冬の諏訪湖を訪れてみると、雪の降った日には、湖面の氷上に雪が積もり、他の季節とは違う諏訪湖を見ることができます。

また、夜間に訪れた際には、湖岸に打ち寄せ氷が、諏訪湖の静寂をかき消すかのような音を響かせていました。



雪景色の湖面



湖岸に押し寄せた氷

## 諏訪湖畔がライトアップされています!

今年も諏訪湖畔にイルミネーションが鮮やかに光り輝いています。(諏訪湖イルミネーション委員会主催)

諏訪湖畔公園から間欠泉センター付近までの街路樹が、LEDを身にまとい、冬の諏訪湖をライトアップしています。諏訪湖間欠泉センターの間欠泉も特別演出が行われています。



湖畔に輝くイルミネーション

諏訪湖周辺では、他にも様々な場所でイルミネーションが見られます。

イルミネーションを訪れる際は、防寒対策と感染対策を確実に行ってください。

なお、湖畔公園では、サイクリングロードの工事中ですので、こちらにも注意してください。



幻想的な間欠泉

## 諏訪湖に流入する河川はいくつ?

諏訪湖の流域面積は531.2km<sup>2</sup>で、諏訪湖に流入する一級河川は上川をはじめ15河川です。一番大きな流域を占めるのは上川で、流域面積全体の約半分、252km<sup>2</sup>を占めています。諏訪湖の流出河川は天竜川1本で、伊那谷を経て、太平洋に流れ込みます。諏訪湖の流域の境界は日本海と太平洋を分ける分水嶺でもあります。

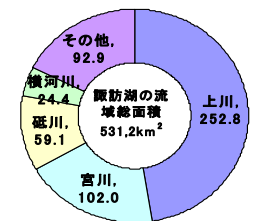
「第7期(2017~2021)諏訪湖水質保全計画」では、農耕地由来の負荷削減対策(窒素成分の削減)として、全流域面積の約2/3を占める上川、宮川が重点地区に指定されました。



図 諏訪湖に流入する河川

諏訪湖の流域面積→

諏訪湖に流入する河川の流域面積531.2km<sup>2</sup>の内、上川と宮川で約2/3を占めています。



### ■ 諏訪湖の流入水対策 (チッソ成分の削減)

#### 上川の植生水路の整備

上川の右岸側の河川敷を幅4.0~11.6m、最大で約2m掘り下げて水路を造成し、水路内の葦に窒素及びリンを吸収させ、成長した葦を刈り取り搬出することで、諏訪湖に流入する負荷量を減らし、水質改善を行う施策です。



写真 上川の植生水路

植生水路の整備区間  
諏訪市市道白狐線  
「鷹野橋」より  
上流 600m  
下流 400m  
の約1,000mに実施されています。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信44号

令和4年2月21日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 明けの海が宣言されました

年末から氷点下を記録する日が続き、早くから全面結氷が観られたこの冬の諏訪湖。

今年こそは、4季ぶりの御神渡りが観られるのではと、期待も高まりましたが、節分の2月3日に、諏訪湖の御神渡りを認定する八剱神社の宮坂宮司から「明けの海」が宣言されました。

この冬は、全面結氷が9日間に上り、御神渡りの兆候も目撃されました。諏訪市と下諏訪町の境付近の湖岸には、割れた氷が打ち上げられた様子も報道され、湖岸に多くの人が見学に訪れるなど、関心も高まっていました。

御神渡りができなかった理由は、方々で述べられていますが、改めて自然の凄さ、神秘さを感じさせるものでした。

新たな春に諏訪湖は向かっていきます。



明けの海が宣言された日の  
諏訪湖  
(御神渡りの観察地点)

## 諏訪湖に関する企画のお知らせ

諏訪湖創生に関する取組として、次の企画が開催されます。オンラインによる開催となりますが、ビジョン達成の一助となるよう、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

### ○WikipediaLIB@信州#04

～ウィキペディアタウンのつくりかた～

昨年開催し、好評の「SUWAKOペディア」。(諏訪湖通信第33号に掲載。)今年も、県立長野図書館主催のイベントに諏訪湖創生ビジョン推進会議も参加し、昨年の振り返りとともに、テーマ別セッションのひとつに「来年度のSUWAKOペディアを一緒につくろう」というテーマを設け、交流を図ります。

・日時 令和4年2月26日(土)午後13時～16時30分まで  
オンライン開催 ※参加には事前登録が必要です。

下記アドレスから2/23 17時まで！

<https://forms.gle/SNLjhWMYWHcGqVJTA>

・内容 詳細は、下記からご覧ください

[https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/happyou/library/220226\\_wikipedialib4.html](https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/happyou/library/220226_wikipedialib4.html)

### ○「ひとりひとりが主役になって成功させる諏訪湖創生

～持続可能な地域づくりの実践～(仮称)

先進事例等を聞く機会を設け、ワーキンググループで検討している取組の深化、ビジョンの改定に向けての機運醸成のために、講演会を開催します。

・日時 令和4年3月23日(水) 14時から16時30分まで  
オンライン開催

・内容 ・基調講演(講師：NPO法人アサザ基金 飯島博氏)  
・パネルディスカッション

参加方法等詳細は、今後諏訪湖創生ビジョンのホームページに掲載予定です。

## 冊子「オオワシ「グル」の記録」を作成し 諏訪地域の小中学校他に配布しました

平成11年1月諏訪湖に落ちて衰弱していたオオワシが岡谷市川岸東の林正敏さん他の手で助けられ、49日間の介護を経て放鳥されました。「グル」と名付けられたそのオオワシは、その後平成30年まで19年間にわたり冬期の諏訪湖に飛来し、地域の様々な人々との温かいふれあいが続けられました。

このことを後世に語り継ぐため、諏訪湖クラブでは「諏訪湖読本」の一環として冊子を作成し、諏訪地域の小中学校他に配布しました。

当初は、諏訪湖に縁の深い岡谷市立湊小学校にて、「グル」の学習会と冊子の贈呈式を行い、近くの岡谷市立岡谷南部中学校へはオンラインにより林さんと生徒たちとの意見交換を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染警戒レベルが5となってしまう開催はかないませんでした。しかし、岡谷市教育委員会が、諏訪地域の小中学校等への配布の窓口を引き受けてくださることになり、令和4年1月27日(木)に岡谷市教育委員会の岩本教育長への贈呈式を行いました。

### ○「オオワシ「グル」の記録」

冊子の仕様； A4サイズ、カラー72ページ  
作成部数； 6,000冊



完成した冊子を手にした諏訪湖クラブ沖野会長、  
執筆した林正敏さん、編集の八幡さん

冊子のことがテレビや新聞に取り上げられると大きな反響を呼び、冊子への問い合わせが多く寄せられました。

オオワシ「グル」とのふれあいを通して、鳥たちへの配慮や諏訪湖の自然の素晴らしさを知ることが出来、これからも諏訪湖の環境を保全していくことが大事だと痛切に感じました。



全国から寄せられた礼状

なお、この事業は諏訪湖創生ビジョンの活動の一環として、諏訪湖クラブが長野県地域発元気づくり支援金を活用し、企画、編集、発行をしました。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。

事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901





# 諏訪湖通信45号

令和4年3月23日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖の東側から流入する最大の川、上川の歴史

上川は、蓼科山と北八ヶ岳から流れ出る河川を集め、諏訪湖に流入する最大の河川です。旧くは千野川と呼ばれていました。

寛文4年(1664年)に描かれた「枕屏風」によると、千野川は広瀬橋のところで車川と上川に分かれていました。車川は飯島村と赤沼村の間で更に二つに分かれて、一つは古六斗川となり福島村を通過して大阿原に流れ込んでいました。もう一つは赤沼川で、白狐の南側を通り下流は乙白川(六斗川)になっていました。

中門川は白狐島の北側を通り三ツ又に通じ、さらに中門川、二の丸御用水(衣乃渡川)、一溝などに分かれました。これらは、城郭の壕の役割を果たし、生活用水としても利用されていました。

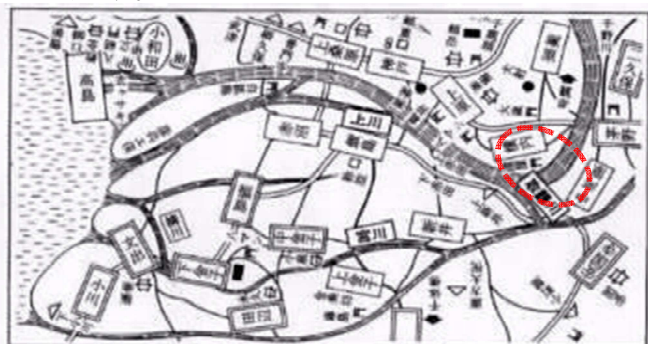


寛文4年(1664年)御枕屏風

### ◆取りこぼし川の開削

寛延元年(1748年)に宮川筋の村々が、「宮川は川幅が狭く水はけが悪いので洪水の時水を上川へ落とすよう排水路を開けていただきたい」と藩に願い出て、中河原村と新井村との境にある荒地へ安国寺橋下から「取りこぼし」の川が開設されました。この取りこぼし川は平水の時全部宮川へ流し、洪水の時に限って七分を宮川に、三分を取りこぼしへ落とすという取り決めになっています。

安永6年(1777年)車川(六斗川)は廃川となって、旧河川敷は検地の後、水田となり、川の跡は用水堰となって残るだけとなりました。この結果、上川は一本となり、余水は同時に開削した彦兵衛川に取りこぼすことになりました。天明8年(1787年)上川筋で水害が多発することから、再び、車川を開削し、広瀬から飯島村、赤沼村の裏を通り白狐の森に至るルートで車川が復活しました。この流末に彦兵衛川を開削し諏訪湖の入江のようだった大阿原へ流しました。これが現在の上川(六斗川)です。



信濃国諏訪郡一圓並筑摩郡五千石之絵図より  
宮川の水を分流する取廻(とりこぼし)川が描かれてい

## 琵琶湖湖北野鳥センター及び 琵琶湖水鳥・湿地センターの紹介

### (1)琵琶湖湖北野鳥センター

昭和63年(1988年)水鳥の保護と自然環境の保全の啓発を目的に、長浜市湖北町の湖岸一帯を「湖北水鳥公園」として整備され、その中心施設として同年11月18日に琵琶湖に面して「湖北野鳥センター」が開設されました。鉄骨造2階建280㎡。充実した施設です。

### (2)琵琶湖水鳥・湿地センター

平成5年(1993年)に琵琶湖がラムサール条約湿地になったことから、水鳥の保護と湿地の保全推進を目的とする施設として「湖北野鳥センター」に隣接・接続する形で平成9年(1997年)5月4日に開設されました。鉄骨造2階建(一部3階建)472㎡。

問合せ先：滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課



琵琶湖湖北野鳥センター(左)  
と琵琶湖水鳥・湿地センター



湖北野鳥センター位置図



望遠鏡(20台設置)で湖岸  
の野鳥を観察できます



ライブカメラの様子を映しながら職員が説明してくれます

### 琵琶湖にやって来る渡り鳥オオワシの紹介

平成10年(1998年)から琵琶湖に飛来する雌のオオワシは令和4年も24季連続で飛来し、地域の人から「山本山のおばちゃん」と親しまれています。



雪が多い年は生活が大変



諏訪湖クラブにぜひ贈って欲しいと依頼、寄贈された冊子「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」を手には、滋賀県湖北野鳥センターの植田潤さん(右)と有名な写真家山岡芳さん



琵琶湖の魚を捕らえました

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901